

岡山県感染症週報 2019年第46週 (11月11日～11月17日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

12月1日は『世界エイズデー』です



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

◆2019年 第46週 (11/11～11/17) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第44週	5類感染症	百日咳 1名 (50代 女)
第45週	2類感染症	結核 1名 (70代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎 1名 (20代 男)
		侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (60代 女)
		梅毒 1名 (30代 男)
第46週	2類感染症	結核 3名 (30代 女 1名、80代 男 1名、90代 女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2名 (O26: 幼児 男 1名、O157: 40代 男 1名)
	4類感染症	デング熱 1名 (30代 男)
		レジオネラ症 1名 (70代 男)
	5類感染症	梅毒 1名 (40代 女)
		百日咳 9名 (幼児 女 1名、小学生 男 3名・女 3名、高校生 男 1名、40代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 47 名 (定点あたり 0.35 → 0.56 人) の報告があり、前週から増加しました。

【第47週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157: 10代 女) の発生がありました (11月21日)。

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました (11月19日～21日)。

- 12月1日は『世界エイズデー』です。岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日等の HIV 抗体検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- [百日咳](#)は、2019年第46週に9名の報告があり、2019年第46週までの累計報告数は396名となりました (2018年の同時期: 155名)。年代別では小学生 (185名、47%)、20歳以上 (92名、23%)、0～6歳の乳幼児 (76名、19%) が多く報告されています。地域別では、備中地域 (117名、30%)、岡山市 (108名、27%)、倉敷市 (89名、22%) の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児が患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。特に成人の感染時は、風邪などを見分けがつかないまま、感染が広がる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
- [インフルエンザ](#)は、県全体で 47 名 (定点あたり 0.35 → 0.56 人) の報告があり、前週から増加しました。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2019/20年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↗	★★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★	伝染性紅斑	↘	★★
突発性発疹	↗	★★	ヘルパンギーナ	↗	★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↗	★
流行性角結膜炎	↘		細菌性髄膜炎	↘	
無菌性髄膜炎	↘	★	マイコプラズマ肺炎	↘	
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 増加 増加・減少：前週比10～100%未満の増減
 大幅：前週比100%以上の増減 ↘：減少 ↓：大幅な減少

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

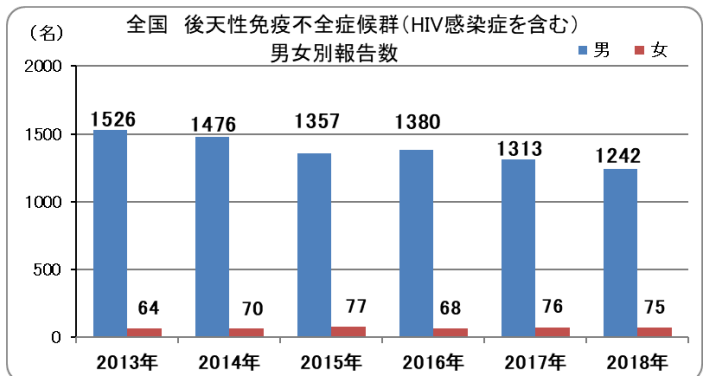
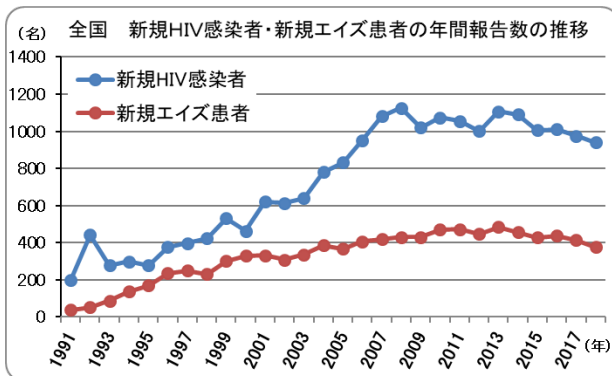
今週の注目感染症

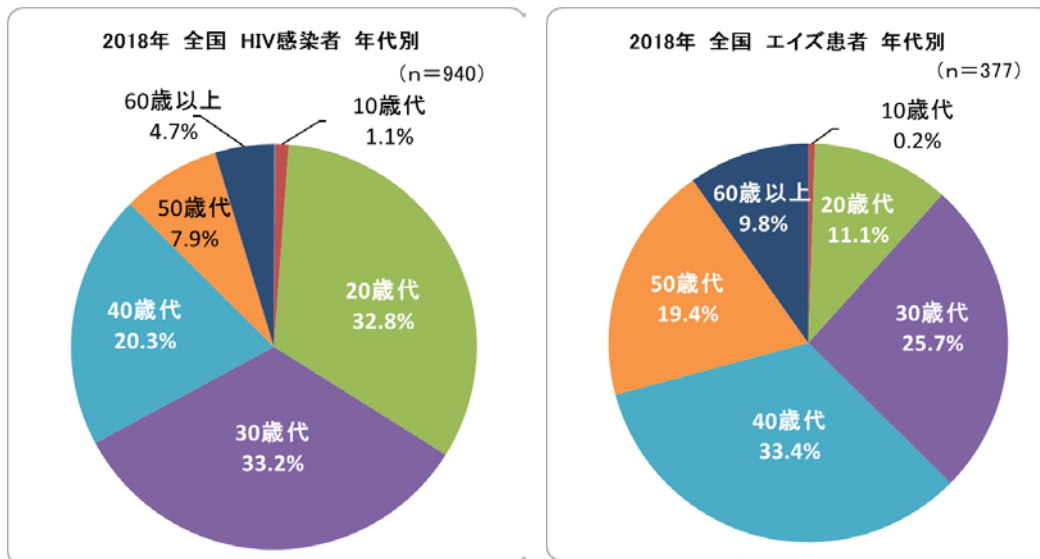
☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

●発生状況

・全国

2018年エイズ発生動向年報によると、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者の新規報告数は940名（前年976名）でした。2007年以降ほぼ横ばいで推移しており、年間1,000名程度の報告数となっています。エイズ患者の新規報告数は、377名（前年413名）と、2006年以降年間400名前後で推移しています。2018年のHIV感染者とエイズ患者の新規報告者の合計数は2017年より減少し、2年連続での減少となりましたが、依然として多数の報告が見られています。HIV感染者およびエイズ患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。都道府県別でみると、2018年HIV感染者報告数（人口10万人あたり）は、東京都（2.54）、大阪府（1.32）、愛知県（1.01）の順で多くなっています。また、エイズ患者報告数（人口10万人あたり）は、徳島県（0.82）、高知県（0.71）、大分県（0.70）の順で多くなっています。



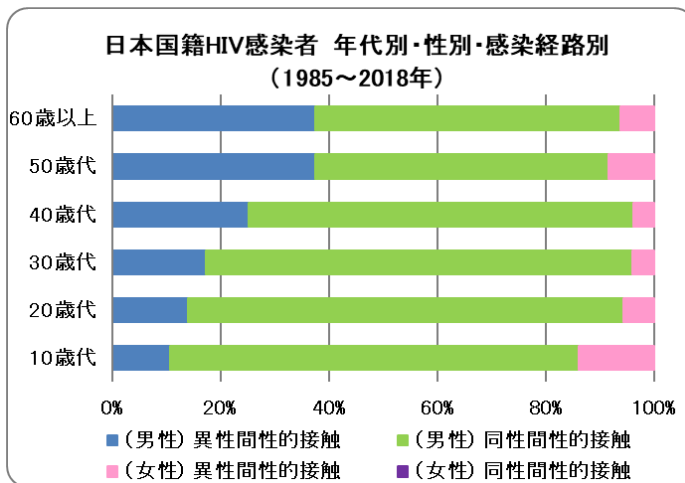


厚生労働省エイズ動向委員会 平成 30(2018)年 エイズ発生動向データより作成

年代別では、HIV 感染者は 20～40 代で多くなっています。またエイズ患者は、20 歳以上の各年代に分散していますが、特に 40 代で多くなっており、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。

HIV 感染者の年代別感染経路では、男性はいずれの年齢においても同性間性的接触の割合が最も高く、年齢が上がるにつれて異性間性的接触の割合が高くなる傾向がみられます。

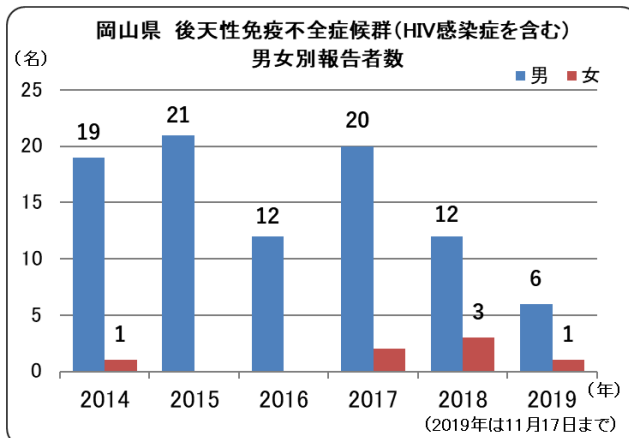
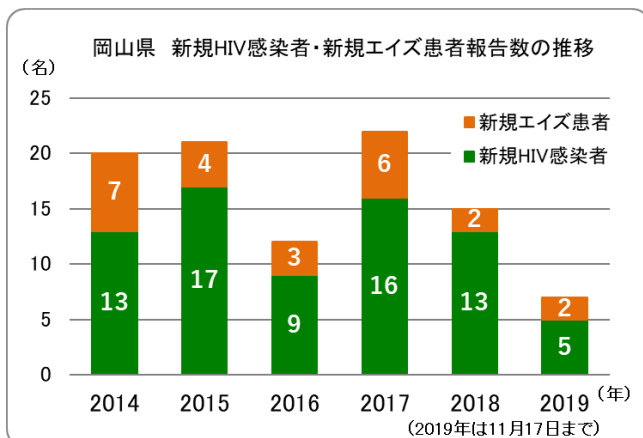
なお HIV 感染者、エイズ患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも 1%未満にとどまっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 30(2018)年 エイズ発生動向データより作成

・岡山県

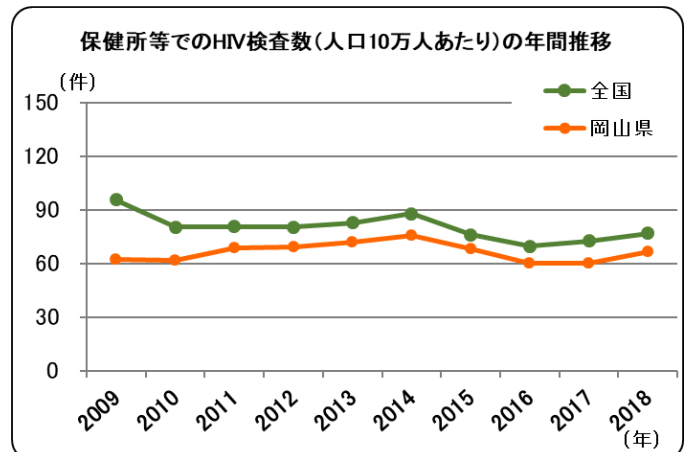
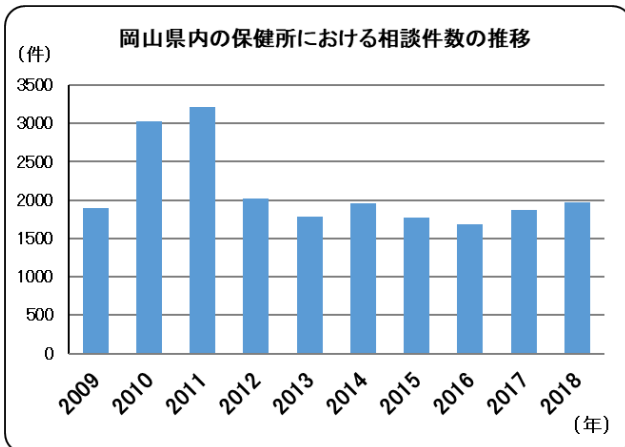
2019 年 46 週（～11/17）までに報告された HIV 感染者は 5 名、エイズ患者は 2 名で、両者を合わせた新規報告数は 7 名となっています（2018 年 46 週までの両者を合わせた新規報告数は 15 名（HIV 13 名、エイズ 2 名））。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 30(2018)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2019 年のデータを追加して作成

【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所等における相談件数は、2011 年をピークに減少し、2012 年以降ほぼ横ばいで推移しています。また保健所および拠点病院での HIV 検査数（人口 10 万人あたり）は、2010 年以降ほぼ横ばい状態であり、全国の保健所等での HIV 検査数（人口 10 万人あたり）と比較して少なくなっています。



【後天性免疫不全症候群(エイズ AIDS)とは】

エイズは、HIV に感染することによっておこる病気ですが、HIV 感染＝エイズということではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を予防することが可能になっています。

【感染経路および感染の確認方法】

HIV の主な感染経路は、次の 3 つです。

(1) 性行為による感染

HIV は感染者の血液や精液、膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口から体内に入ることによって感染します。

(2) 血液を介しての感染

麻薬等の依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用などによって感染します。なお、血液凝固因子製剤については、加熱処理が行われているため、感染の心配はありません。

(3) 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親が HIV に感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。

HIV 感染の確認方法

HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液中に HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、はじめて感染の有無を確認することができます。

【予防方法】

不特定多数との性行為を避けるなど、感染のリスクを下げる配慮が必要です。また、性行為において正しくコンドームを使用することは、HIV 感染／エイズ予防にとって有効な手段です。HIV の感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

[エイズ Q&A \(エイズ予防情報ネット\)](#)

2019年12月1日 世界エイズデー
『UPDATE! 話そう、HIV/エイズのとなりで
～検査・治療・支援～』

(「世界エイズデー」キャンペーンテーマ)



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2018年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数と後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、30,000件を超えました。地域的、年齢的にもひろがりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV感染者……感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

エイズ患者……受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、「AIDS」患者として報告されたもの（*いきなりエイズ）。

（既にHIV感染者と報告されている症例がエイズを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。）

※「いきなりエイズ」とは、エイズ発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。

HIV感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染のひろがりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、
岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。

[令和元年度 保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日検査 日程一覧](#)

○岡山県では、平成25年度から全県を挙げて、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所の

エイズ検査（一部、梅毒等も含む）・性感染症相談は、こちらから

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（電話相談は行っていません）は、[こちらから](#)

HIV検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないとわかりません。HIVに感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期がつづくため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIVは、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬等をつづけることで、エイズの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がエイズ発症防止やHIV感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律1,000円・即日検査）などでのHIV検査を積極的に利用することが望まれます。もしHIV検査で感染していることがわかった場合でも、県内10か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	血液検査	岡山市・倉敷市・備前・美作保健所 即日 陰性⇒約1時間後(簡易迅速検査による) 陽性⇒1週間後(確認のため)	感染が疑われる 機会があってから 3 か月経過後	無料	必須	匿名 梅毒などの性感染 症検査も同時 に受けられる
		その他の保健所・支所 1週間後				
拠点病院		即日 (1~2時間後)	感染が疑われる 機会があってから 8週間目以降	1,000 円	必須	匿名では 受けられない

重要! HIV 等、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください!

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。
HIV 等、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

麻しんに注意しましょう!

●全国的に麻しん(はしか)の感染患者が確認されています!

全国では、第45週に1名の発生報告があり、2019年の累積患者報告数は729名となりました。

●麻しんはワクチンで予防できます!

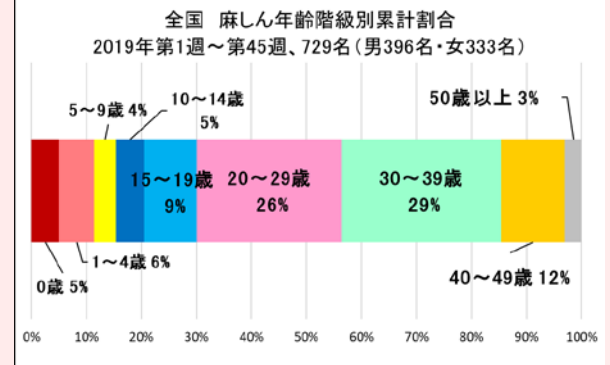
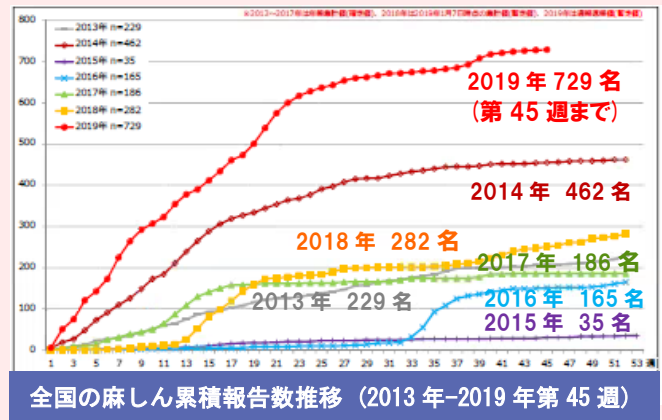
麻しんは、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。

1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

加えて、麻しん感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。

この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方(特に28歳以上)は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



☆症状などについてのリンク ⇒ [麻しんについて\(厚生労働省\)](#) ・ [麻しんとは\(国立感染症研究所\)](#)

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんにり患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

全国では第44週に1名の発生報告があり、2019年第44週までの累積報告数は4名となりました。

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、全国的に始まりました(2019年4月から2022年3月31日まで)。

今年度は**40~47歳**の方を対象に、市町村から風しんクーポン券が送付されており、以下のリストに掲載されている医療機関で、無料で抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

☆この制度についての詳細はこちら

→ [風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)

岡山県の2019年4月~8月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、12%となっています！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！



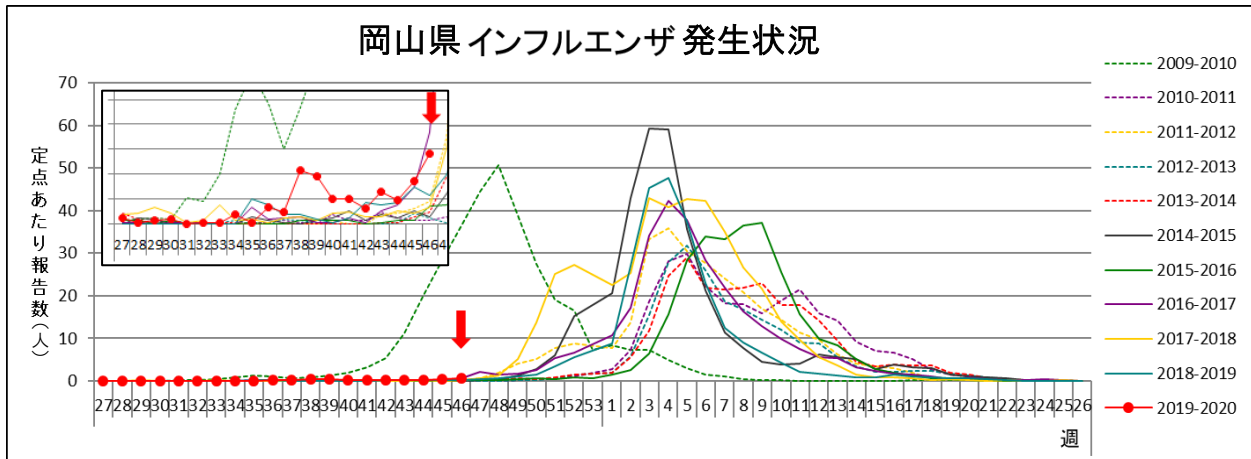
インフルエンザ週報 2019年 第46週 (11月11日～11月17日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で47名（定点あたり0.56人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者2名の報告がありました。

【第47週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました（11月19日～21日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、美作地域で19名、真庭地域で12名などの報告があり、県全体では47名（定点あたり報告数0.56人）の報告となっています。真庭地域で定点あたり報告数は4.00人、美作地域で1.90人となり、流行開始の目安とされる定点あたり報告数1.00人を超えています。今シーズン（2019/9/2～）は、例年より早く、第36週（9/2～9/8）から散発的に患者が報告されています。

全国の定点あたり報告数は、第45週は1.03人となり、第44週の0.95人からわずかに増加しました。流行開始の目安とされる定点あたり報告数1.00人を超えたため、例年より早く（昨シーズンより1か月程度早く）インフルエンザの流行シーズンに入りました。都道府県別では、沖縄県で定点あたり報告数が多く（4.45人）、九州地方、東北地方など18都道府県で定点あたり報告数1.00人を超えています。

◆県内のインフルエンザの流行に備え、感染予防に努めましょう◆

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みを避けましょう。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな？という時には 】

- ・ 早めに医療機関を受診しましょう（受診時はマスクを着用してください）。
- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

『咳エチケット』～咳やくしゃみをするときは～

1. 周囲の人からなるべく離れましょう。
2. 他の人から顔をそらせ、ティッシュや手で口などで口と鼻を覆いましょう。
3. 口と鼻を覆った手は、すぐに石鹸で丁寧に洗いましょう。
4. 咳やくしゃみが出ている間は、マスクを着用しましょう。

- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	47	↑	備 中	患者数	5	↑
	定点あたり	0.56			定点あたり	0.42	
岡山市	患者数	1	↓	備 北	患者数	4	↓
	定点あたり	0.05			定点あたり	0.67	
倉敷市	患者数	4	→	真 庭	患者数	12	→
	定点あたり	0.25			定点あたり	4.00	
備 前	患者数	2	→	美 作	患者数	19	→
	定点あたり	0.13			定点あたり	1.90	

【記号の説明】前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

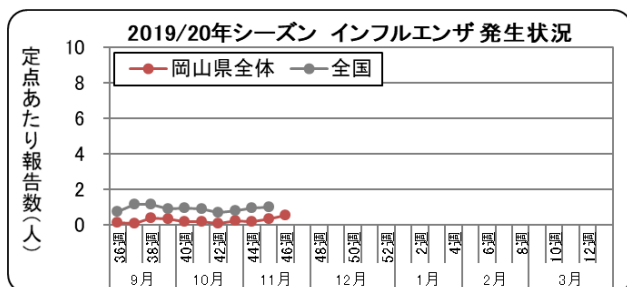
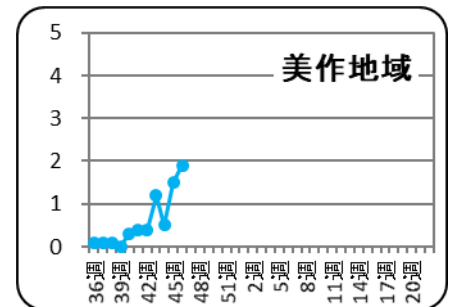
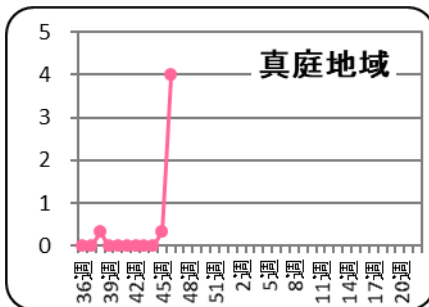
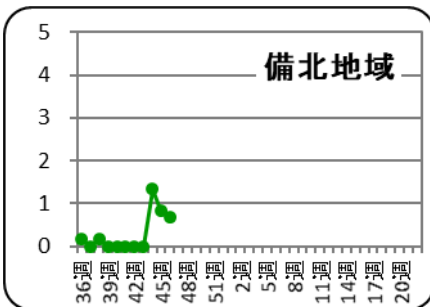
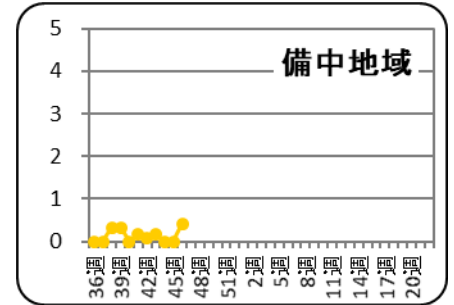
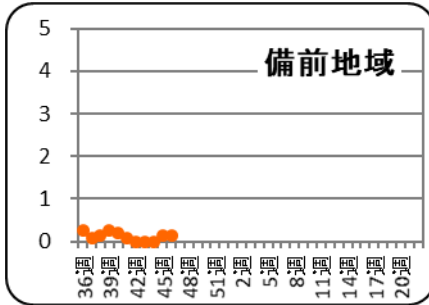
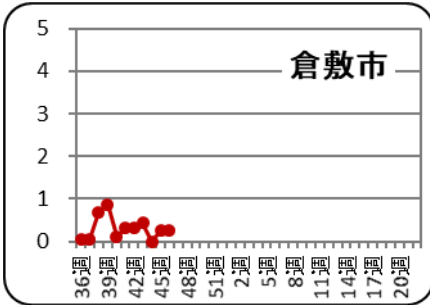
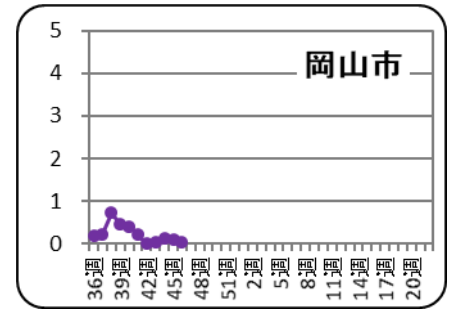
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0



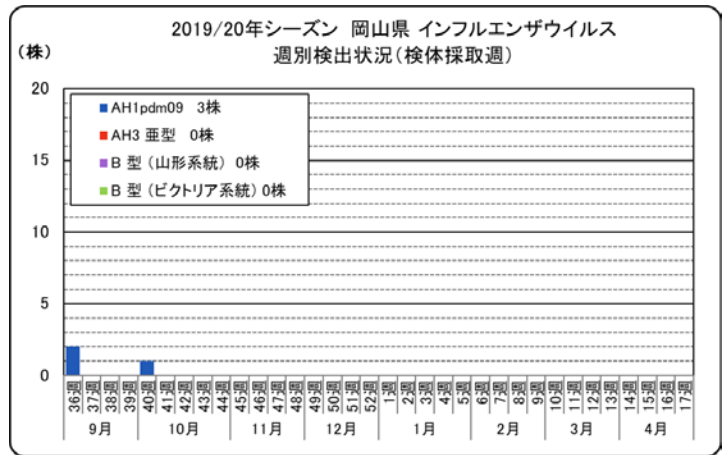
全国集計 2019 年第 45 週 (11/4～11/10) 速報値によると、全国の定点あたり報告数は 1.03 人となり、全国的な流行シーズンに入りました。

都道府県別では、沖縄県 (4.45 人)、鹿児島県 (2.66 人)、青森県 (2.48 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。18 都道県で流行開始の目安 (定点あたり 1.00 人) を超えています。

[インフルエンザの発生状況について \(厚生労働省\)](#)

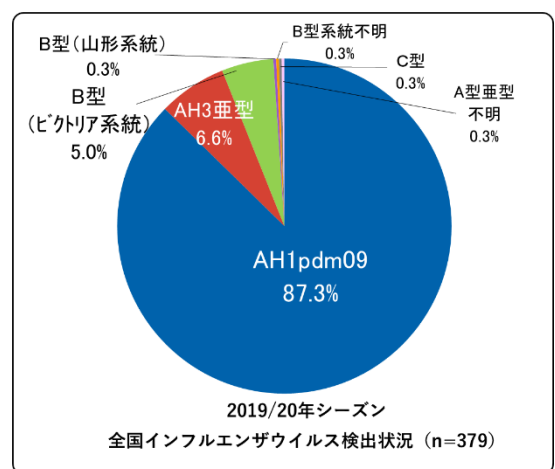
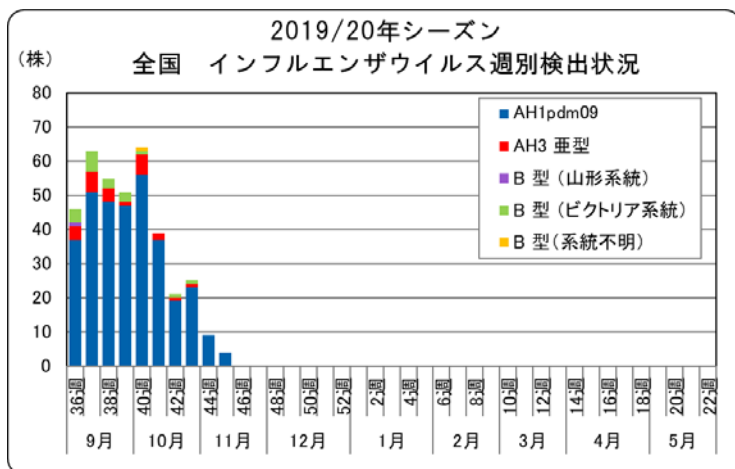
2. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第46週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは3株で、全てAH1pdm09です。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が331株、AH3亜型が25株、B型が21株（ビクトリア系統19株・山形系統1株・系統不明1株）、C型1株、A型亜型不明1株となっています（11月19日現在）。

インフルエンザウイルス分離・検出速報 (国立感染症研究所)

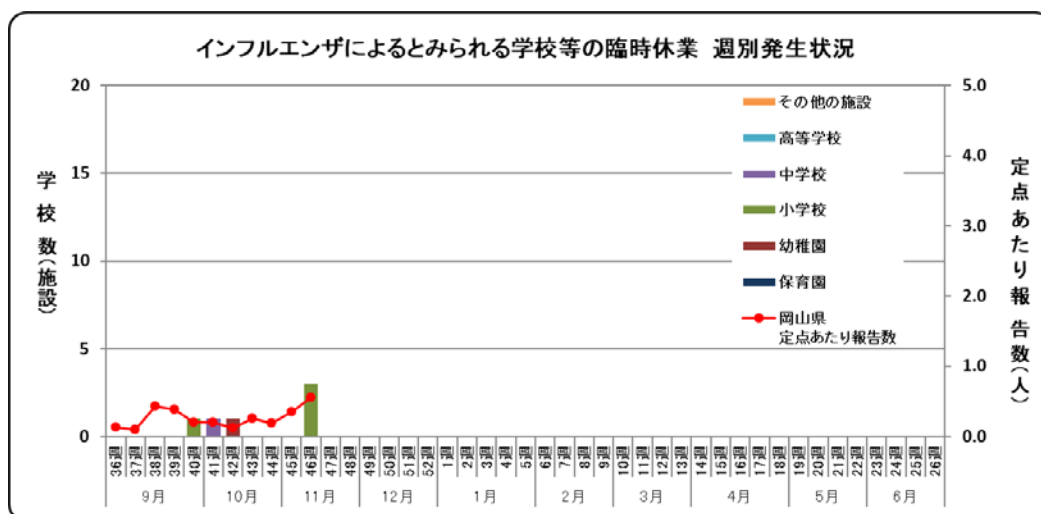


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、3施設でありました。

【第46週 臨時休業施設数】

▽井原市 1 ▽真庭市 1 ▽久米南町 1



1) 臨時休業施設数の内訳

第46週:3施設 累計:6施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	—	0	1	3	4	0	1	0	—	0	—

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

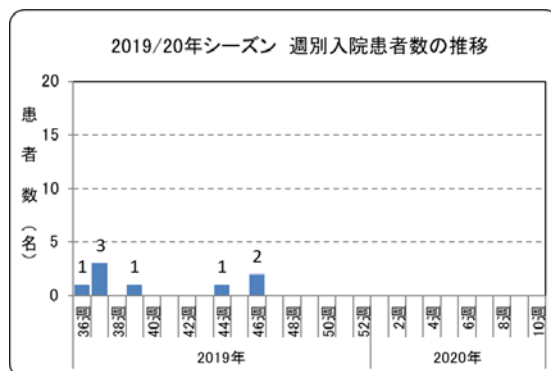
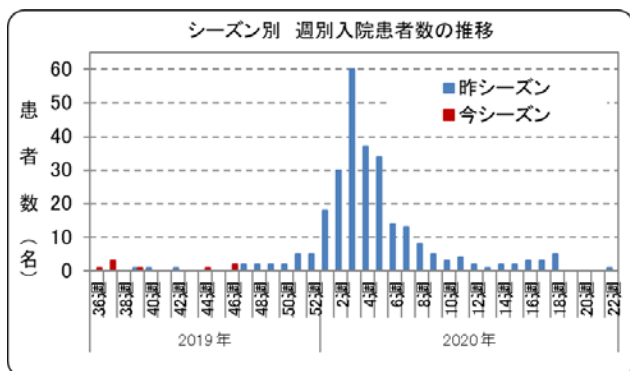
* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	32	103	25	75	3	6	0	0	3	5	0	1	R1. 9. 30
岡山市	0	14	0	13	0	1	0	—	0	1	0	—	R1. 9. 30
倉敷市	0	23	0	23	0	1	0	—	0	—	0	1	R1. 10. 15
備前地域	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—
備中地域	17	17	11	11	1	1	0	—	1	1	0	—	R1. 11. 11
備北地域	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—
真庭地域	7	7	6	6	1	1	0	—	1	1	0	—	R1. 11. 13
美作地域	8	42	8	22	1	2	0	—	1	2	0	—	R1. 10. 8

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2 名（ともに 80 歳以上）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 46 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数												2	2
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *													
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず												2	2

* 重複あり

【2019年9月2日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数			1	1	1				1			4	8
ICU入室 *													
人工呼吸器の利用 *												1	1
頭部CT検査(予定含) *					1								1
頭部MRI検査(予定含) *					1								1
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず			1	1					1			3	6

* 重複あり

◆◆インフルエンザの予防接種はお早めに！◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

例年本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

* 65歳以上の方

* 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

[インフルエンザQ&A（厚生労働省）](#)

[令和元年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2019/20 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数 2019年 46週(定点把握)

(2019/11/11~2019/11/17)

2019年11月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	1	0.05	4	0.25	2	0.13	5	0.42	4	0.67	12	4.00	19	1.90
RSウイルス感染症	23	0.43	8	0.57	9	0.82	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	29	0.54	9	0.64	3	0.27	1	0.10	-	-	3	0.75	-	-	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	20	1.43	18	1.64	7	0.70	8	1.14	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	215	3.98	96	6.86	35	3.18	34	3.40	6	0.86	16	4.00	13	6.50	15	2.50
水痘	16	0.30	6	0.43	2	0.18	3	0.30	2	0.29	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	21	0.39	9	0.64	3	0.27	-	-	2	0.29	7	1.75	-	-	-	-
伝染性紅斑	11	0.20	3	0.21	1	0.09	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	2	0.33
突発性発疹	19	0.35	9	0.64	4	0.36	2	0.20	4	0.57	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	0.11	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	-	-	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 46週(発生レベル設定疾患)

(2019/11/11~2019/11/17)

2019年11月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	47	0.56	1	0.05	4	0.25	2	0.13	5	0.42	4	0.67	12	4.00	19	1.90
咽頭結膜熱	29	0.54	9	0.64	3	0.27	1	0.10	-	-	3	0.75	-	-	13	2.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	20	1.43	18	1.64	7	0.70	8	1.14	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	215	3.98	96	6.86	35	3.18	34	3.40	6	0.86	16	4.00	13	6.50	15	2.50
水痘	16	0.30	6	0.43	2	0.18	3	0.30	2	0.29	2	0.50	-	-	1	0.17
手足口病	21	0.39	9	0.64	3	0.27	-	-	2	0.29	7	1.75	-	-	-	-
伝染性紅斑	11	0.20	3	0.21	1	0.09	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	2	0.33
ヘルパンギーナ	6	0.11	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	1	0.07	-	-	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第46週 2019/11/11～2019/11/17)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	47	-	1	1	1	-	1	2	-	-	1	1	10	8	1	1	5	4	3	4	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	23	8	2	8	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	29	-	1	5	3	3	5	2	4	2	-	-	3	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	-	-	2	-	6	9	6	9	4	5	7	7	2	2
感染性胃腸炎	215	3	15	26	17	17	21	14	23	10	11	6	20	3	29
水痘	16	-	1	-	1	-	3	3	1	3	1	1	2	-	-
手足口病	21	-	2	5	3	4	2	1	2	1	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	11	-	-	-	1	1	-	2	2	2	2	-	1	-	-
突発性発疹	19	-	8	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

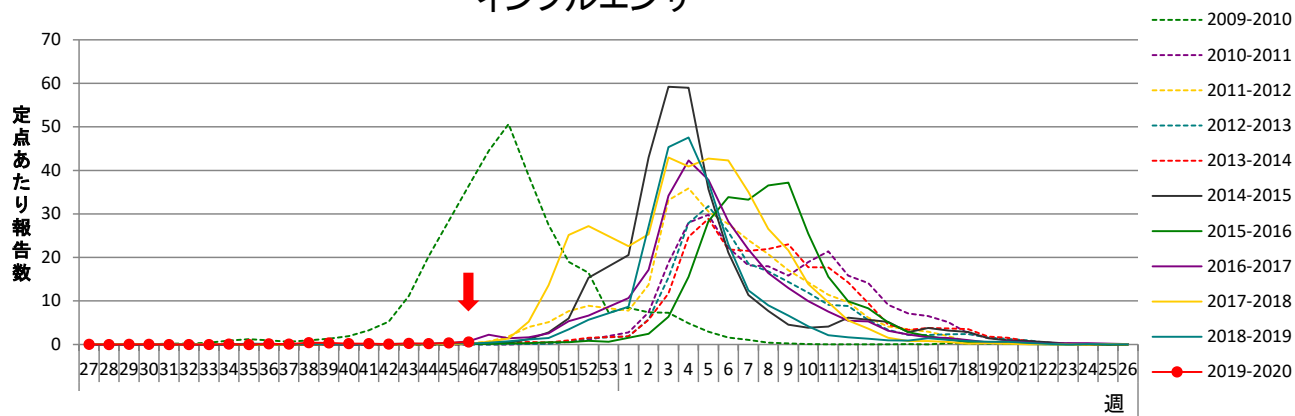
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

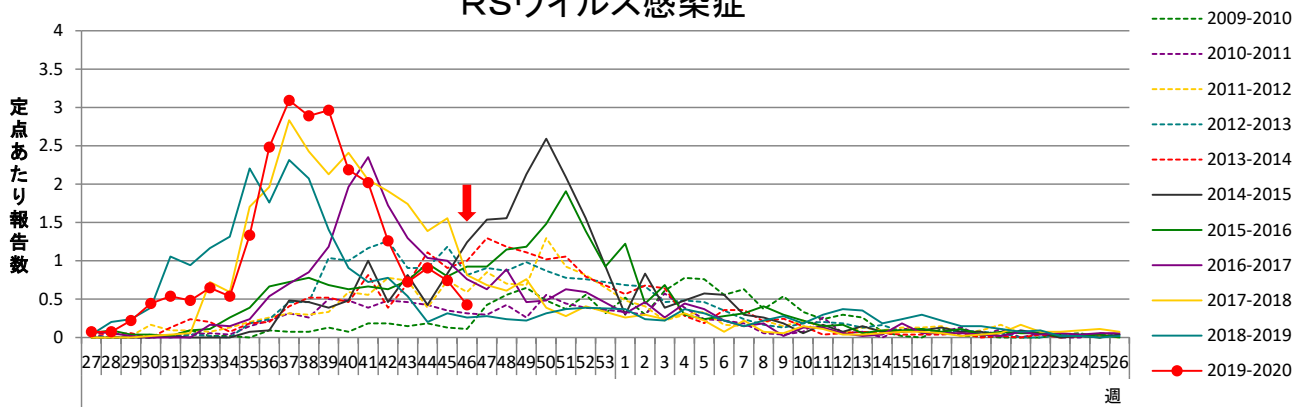
2019年 46週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	260	337	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	4	16	腸管出血性大腸菌感染症	2	54	70	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5	
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	2	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	3	2	
	デング熱	1	7	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	3	5	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	1	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	52	83	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	12	15	ウイルス性肝炎	-	10	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	30	26
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	2	3	急性脳炎	-	16	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	4	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	6	14	後天性免疫不全症候群	-	7	18	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	36	45	水痘(入院例に限る。)	-	8	3	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		1	174	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	3	-	百日咳	9	396	187	
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

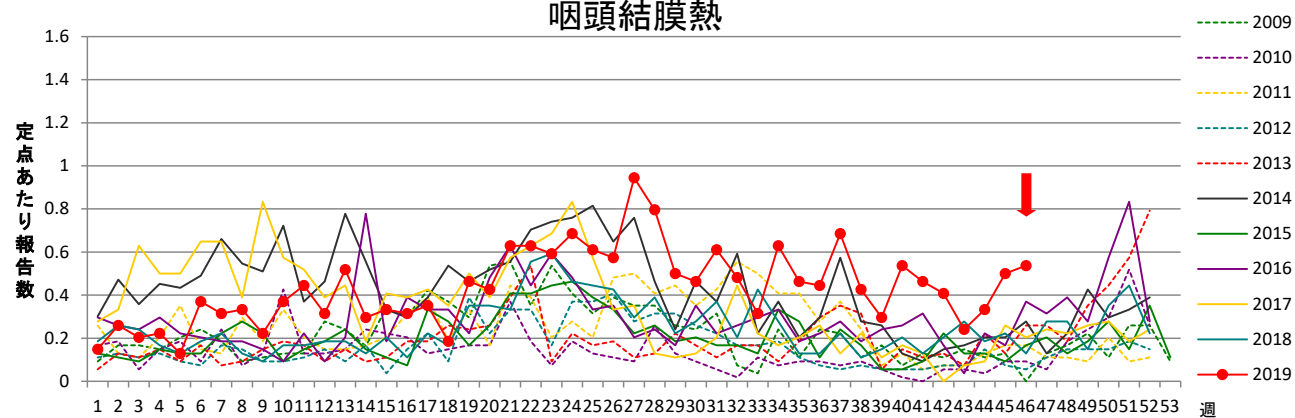
インフルエンザ



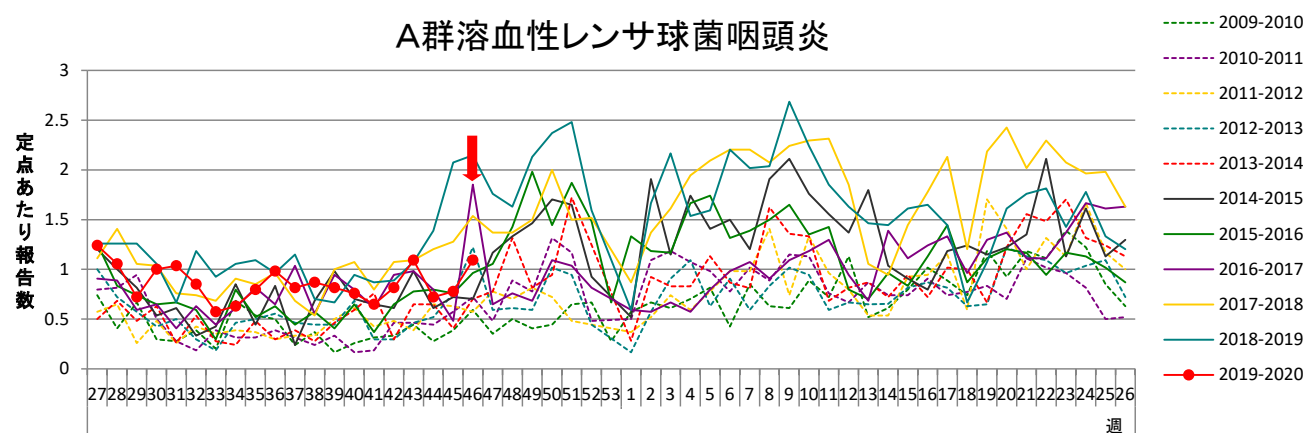
RSウイルス感染症



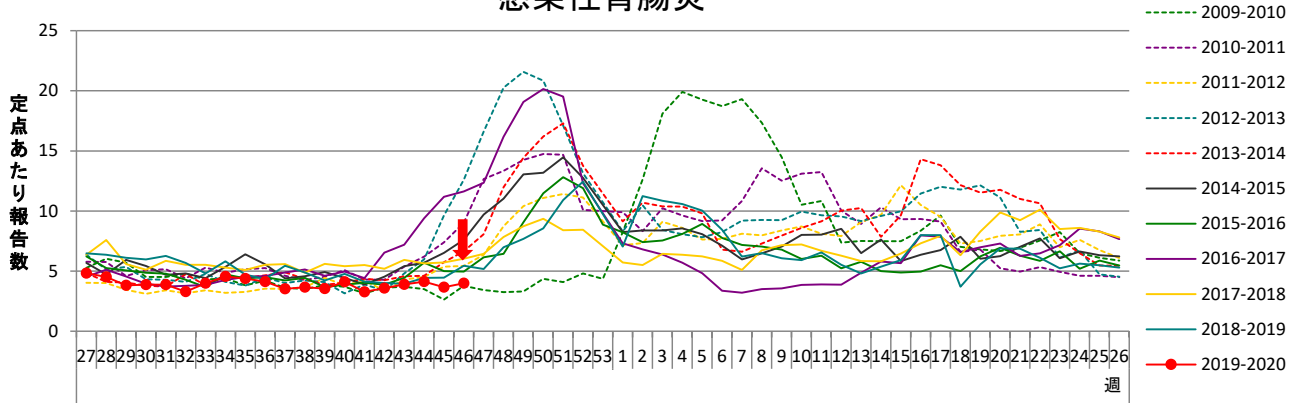
咽頭結膜熱



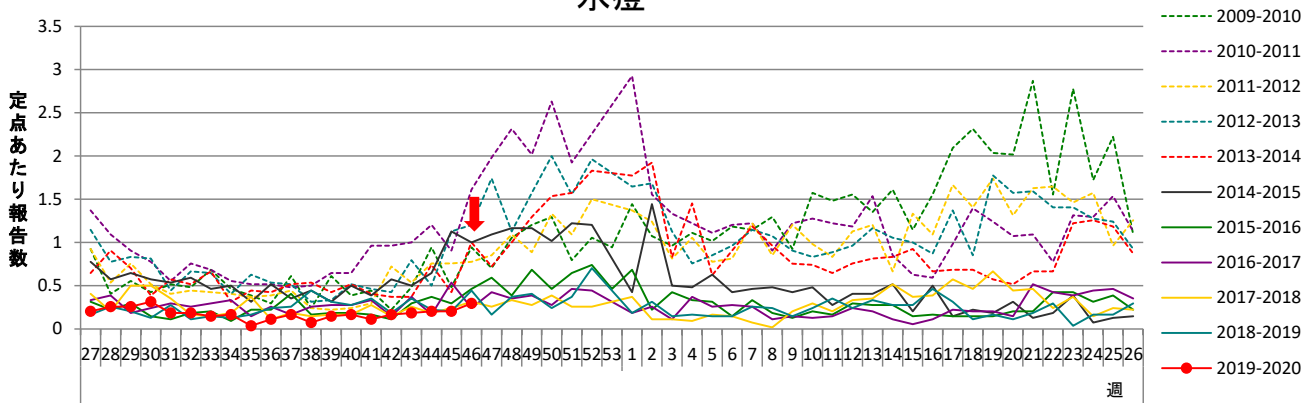
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



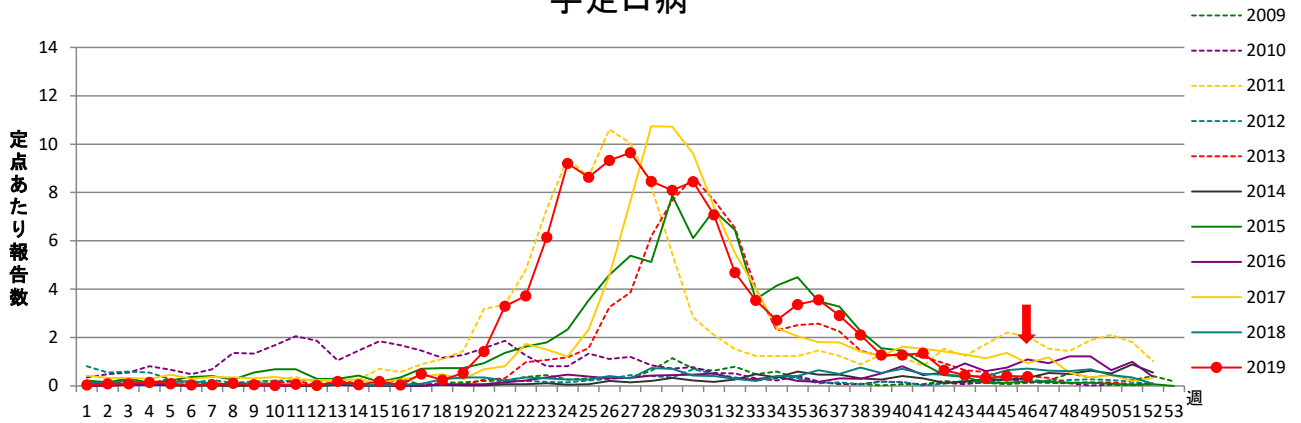
感染性胃腸炎



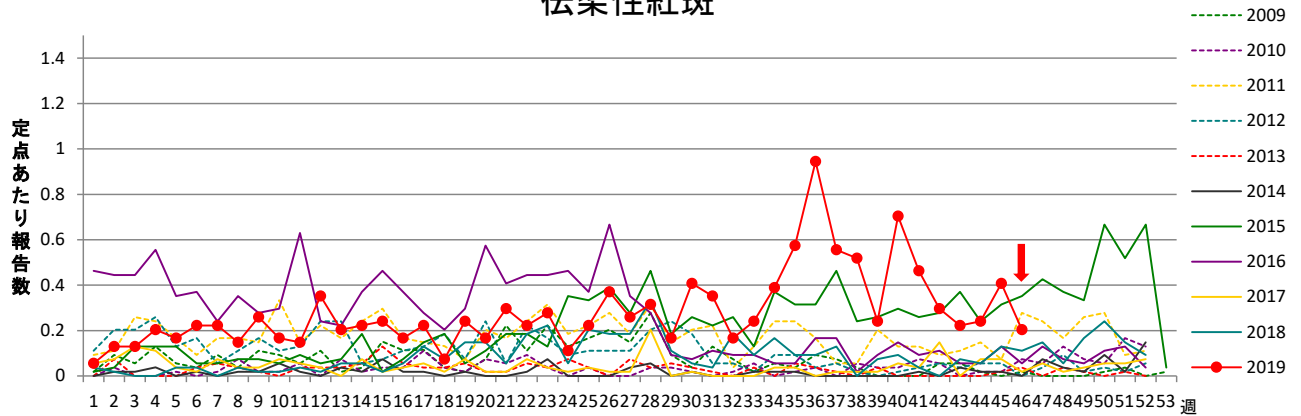
水痘



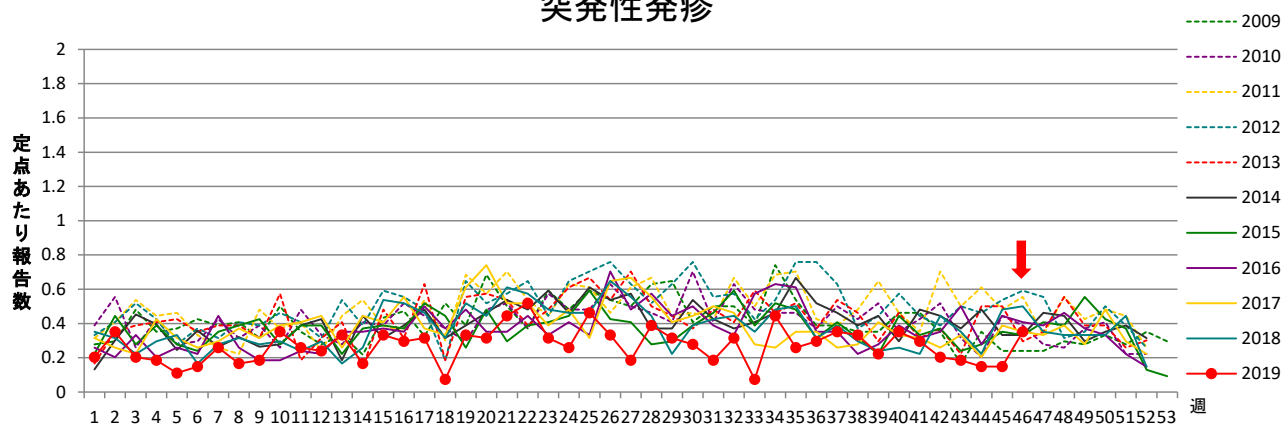
手足口病



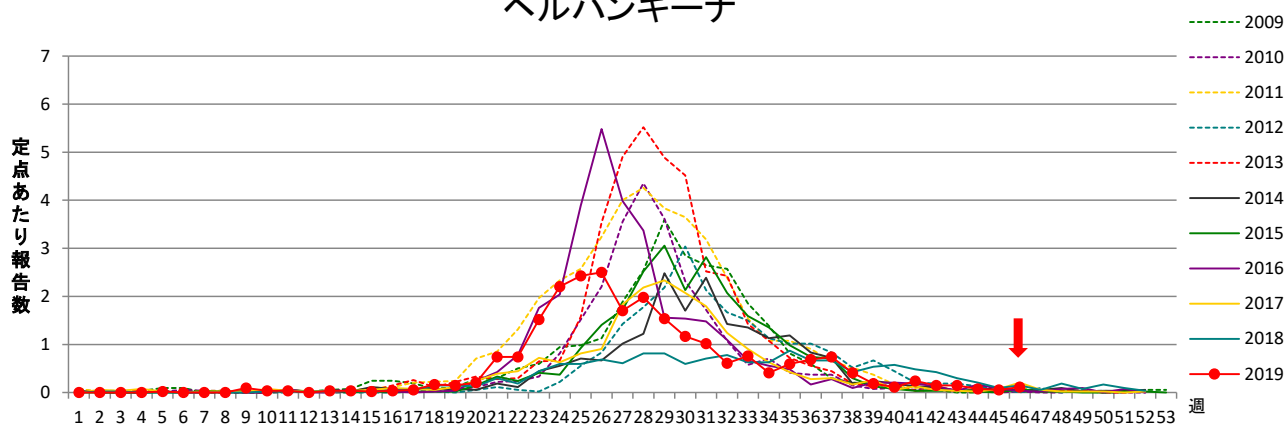
伝染性紅斑



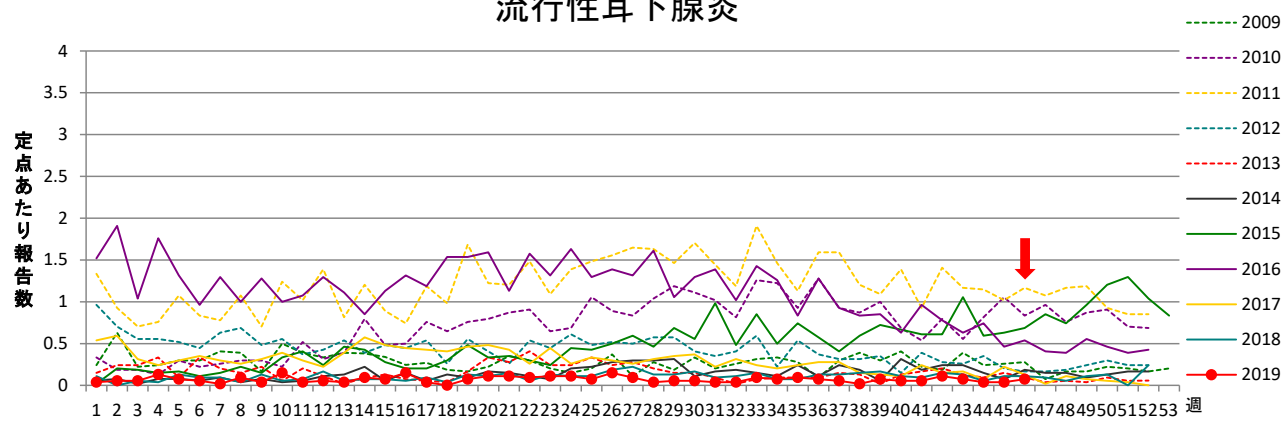
突発性発疹



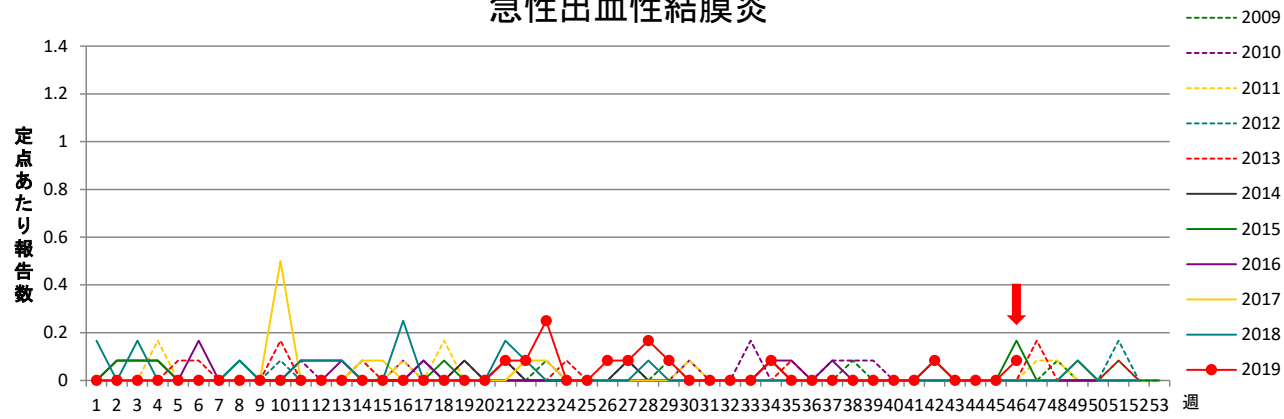
ヘルパンギーナ



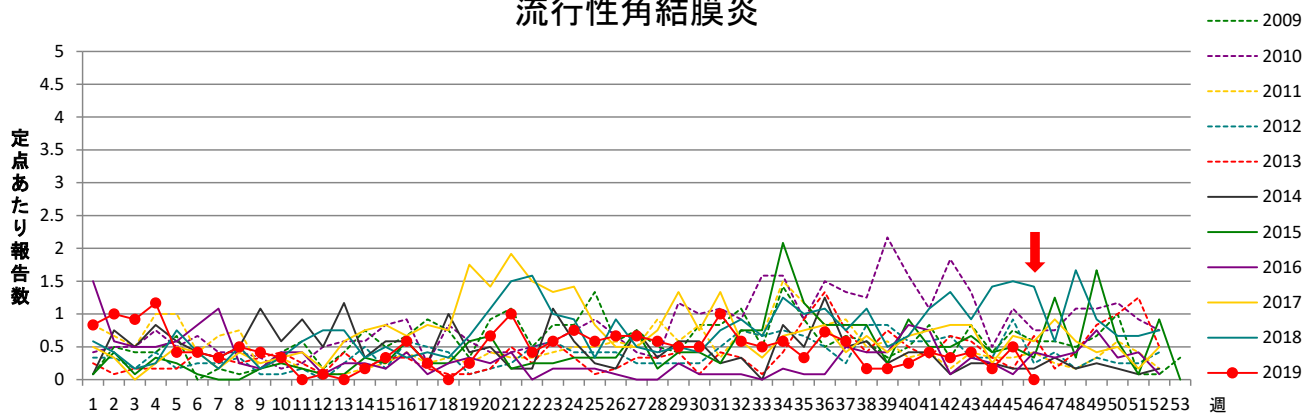
流行性耳下腺炎



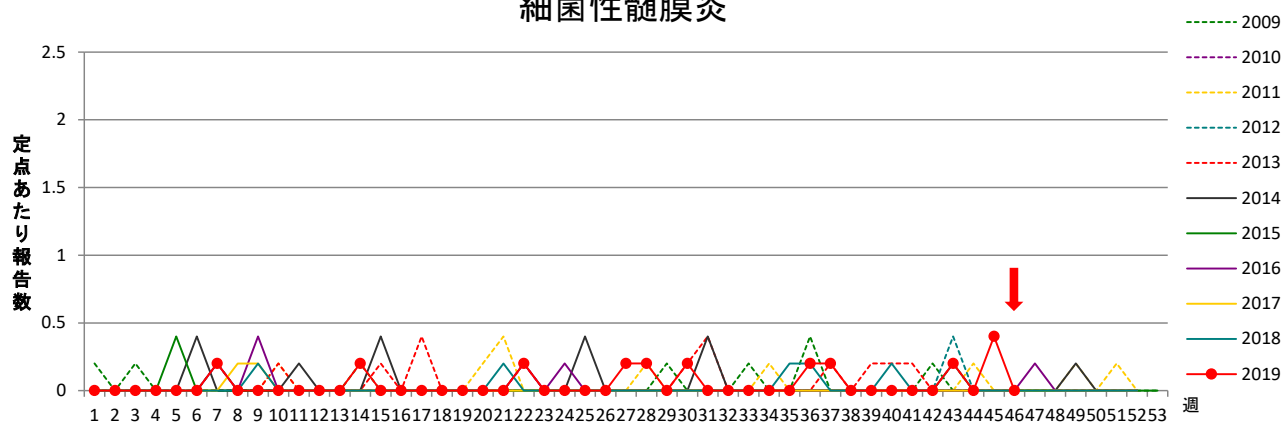
急性出血性結膜炎



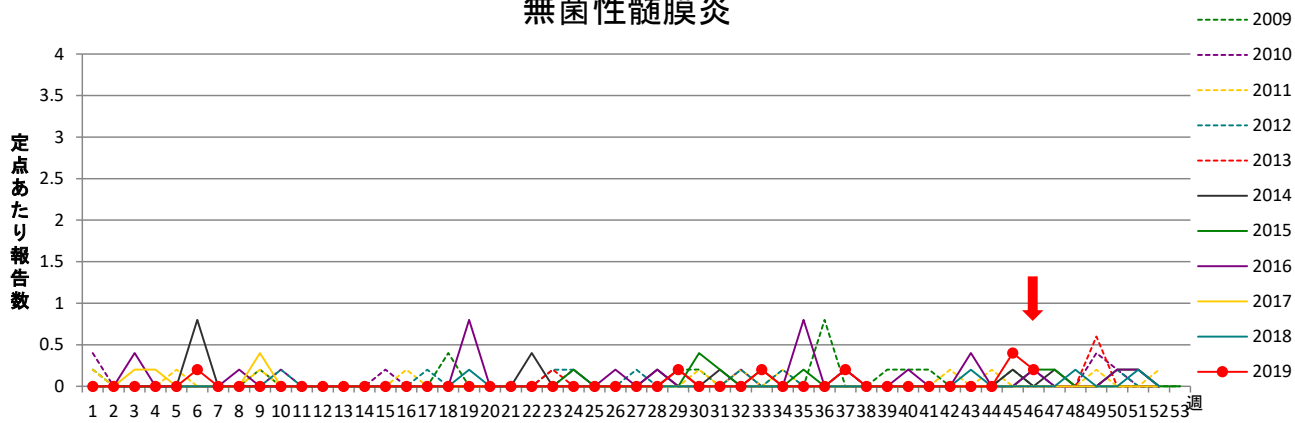
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎

